

佐伯 順弘

DAY2 (14AUG2022) 九份, 十份

0030 ふと思いつく, いや待てよ。明日はそれほど早くなくてもいいのではないか。2日目から寝不足では今後の旅にも影響する。そもそも, 旅は詰め込むことが目的ではないのだ。すぐ連絡しなければならぬ。深夜に女性の部屋を訪れるのは気が引ける。いやいや, ネットで連絡すれば済む話ではないか。「8/14の朝は0630集合だったのですが, 体調を考えてカフェスペース0800集合とします。ゆっくり寝てください。」と送信した。案の定, 速攻で次々と既読がつき, 連絡が届いたことが確認でき, 一安心だ。ゆっくり寝よう。朝食が遅れるので, 若干空腹を感じさせることになるかもしれないが, 旅は空腹を感じているくらいが何かと調子が良いのだ。この勝手な思い込みはよくないと理解はしているのだが, 俺標準で物事を考える。

0730 起床。ビタミン剤・整腸薬と水を摂取し, 腸の蠕動運動を促す。排便, シャワー, 身支度を素早く終え, 0800集合場所にいくと, 既にメンバーがそろっていた。

「いやあ, 早いね。」

「6時頃目が覚めちゃって, 暇でした。」

「私はぎりぎりまで寝ていて, 大急ぎで準備しました。」

と, ロ々に話してくれるメンバーは朝からテンションが高く, 疲れもないようだ。これが若さか。確かに学生のときは自分も3日徹夜していたし, 旅では2時間くらいの睡眠で活動していたが, 旅の疲れは急に來るので, 彼女たちの健康管理にも気をつけたいところだ。

「じゃ, 行こうか。」

今夜も同じ宿に泊まるので身軽だ。とりあえず朝食だが, おにぎり屋「飯糰覇」を選定しておいた。一人旅のときは調査することなどほとんどなく, なにか面白いものに出会ったら食べるというスタイルなのだが, 今回はツアーガイド的なポジションなので, 軽く調査しておいた。

宿泊したところから, 26mほどのところにあるおにぎり屋は巨大おにぎりで有名らしい。こちらでおにぎりは「飯糰」と書くのだが, 読み方は知らない。いつもコンビニで買うとこの文字があるのだが, どう読むのかを確認したことはない。一瞬, 気にはなるのだが食べてしまえば, 忘却の彼方である。さて, ここは店内でも食べられるが, もちろんテイクアウトもできる。ちなみにテイクアウトは「外帯」(ワイタイ), イートインは「内用」(ネイヨウ) と言えば, おそらく通じる。

「中で食べていこうか。」

店内は込んでいたが, 何とか座れそうな雰囲気だ。まずは注文だ。「招牌總匯飯糰50」と「鮭魚飯糰35」で一瞬迷うが, 「招牌50」の方にしておいた。加えて「豆漿15」。これは豆乳だ。1円⇔0.22NT\$なので, これで300円くらいだ。そして, おにぎりはでかい。他の客のおにぎりを見て恐れをなしたか, 2人で1個, 各自豆乳という感じで注文していた。漢字はわかるので, メニューを指させば大丈夫だ。こういう状況では各自, 支払ってもらう形でよいだろう。多くの人でごった返してはいたが, テイクアウトの人が多く, 中で食べる人はそれほど多くなかった。都合よく4人掛けのテーブルが空いていた。彼女たちを座らせ, 向かいに1つ空いていた席に座って, 食べ始めようとする, やはり撮影会が始まっていた。自分も記録を取らなくてはならないと思い, 一口かじったおにぎりの写真を撮る。おにぎりも豆乳もかなりのボリュームで少し空腹なくらいがいいという自分のスタイルからは外れてはいたが, 特に問題はない。芽衣ちゃんと小晴ちゃん, ゆりちゃんとすずちゃんがそれぞれ, おにぎりを半分にして食べていた。微妙に日本と違うタイワニーズテイストは無理なく受け入れられているようだ。「豆乳は日本のよりやさしい味がしますね。」と, 小晴ちゃんは気に入ったようだ。

「おにぎりは日本では食べたことのない具だったけど、おいしかった。」

芽衣ちゃんも満足げだ。

「おなかがすいていたので、1個でも行けたかもしれない。」

「ゆり、もう1個食べる？」

と、すずちゃん。

「いやいや、もう1個は無理。」

でしょうね。かなり大きかったから。そんなことを話しながら、おにぎり屋を出る。

「これから、交通カードを買いに行こうと思うんだけどいいかな。本当は昨日の空港からのMRTに乗ったときに買っておくとよかったと思うけど、悠遊カード「悠遊卡・Easy card」(悠游卡)っていう交通カードをかっておくといいんだよね。チケットやトークンを買う手間が省けるし、運賃も割引になるから。これから乗る列車は片道で44NT\$だから500NT\$入れておけば、とりあえず今日の移動は十分。台中でも、高雄でも使えるから、無駄にならない。20NT\$かかるけど、払い戻しもできるし。」

「それってどこで買えるんですか。」

芽衣ちゃんが買う気まんまんで聞いた。

「そこ。目の前にあるコンビニ買えるよ。」

日本でもおなじみの711に入った。デザインはいろいろある。とはいっても、まあ、ほとんどがかわいいやつだ。チャージもここでできる。

十分悩んだ後、各自好きなデザインのものを選んで500NT\$(約2500JP¥)チャージする。一連の作業をさっと済ませて、台北駅への地下道に入る。構内は若干わかりにくいところもあるが、掲示に沿って行けばなんとかなる。途中、トイレも確認しながら改札口に到着した。

「じゃあ、ここで一旦解散。0924発か0949発の普通列車を考えてる。今0850だから、遅くとも0930にはここに戻ってきて。0915までに集合出来たら、0924発で行こう。トイレは今通ってきたところにあるから、言っておいた方がいいと思う。何か質問はあるかな。」

「ありません。」

つくづく、優秀な生徒たちだ。4人はそれぞれに小さな冒険に向かった。いくらガイド付き

とはいえ、完全自立走行の時間があつたほうがいい。今まで友人と海外旅行した時も一日完全別行動をして、夕食のときに今日の冒険を交流したものだ。とりあえず、トイレに行っておく。自分の都合でもあるが、自分自身の目でトイレの清掃状況を確認しておかなければならない。特に女性はトイレの清潔さについては厳しい。飲食店で快適でないトイレの店は確実に評判が落ちる。駅のトイレの清潔さでその国のレベルを計ることができると考えている。万一、トイレが快適でなかった場合、顔には出さないが機嫌が悪くなることは必定である。・・・調査の結果、及第点であることが分かった。一安心である。こういうところに気を遣う自分は嫌いではない。そんなことを考え、集合場所で人々の観察をしていると、すずちゃん、つづいてゆりちゃんが戻ってきた。2人が一緒にいたわけではないようだ。

「一人で探索した？」

「そうなんです。せっかくの冒険のチャンスなので、大切にしようと思って。」

「おすずは以前から冒険的などころがあるなあと思っていました。」

「ゆりだって、結構冒険するよね。」

よいことだ。こういうところであえて単独行動をとることができるというのは大切だ。

「ああ、遅れるかと思った。」

小走りで芽衣ちゃんが現れた。

「まだ、3分前。全然問題なし。」

「頑張つて、結構遠くまで行ってしまつて、一瞬迷いました。」

「そのドキドキ感がいいんだよ。」

「半泣きではないですけど、4分の1泣き位でした。」

「さて、小晴ちゃんは来るかな。」

「来てますよ。」

「うわあ、いきなり静かに現れたあ。」

「今来たばかりです。私も遠くまで行こうと頑張つた結果、迷いました。」

「いやいや、冒険しまくってますな。よいですよ、大変よろしいです。さて、改札通つて、ホームに行こうか。」

4番プラットホーム（なぜか月台という。）に瑞芳とあるのでわかりやすい。ホームに降りると電光掲示板に発車時刻とホームA・Bの別が表示されている。0924発1021着の普通列車に乗り込む。通勤向けといった感じの座席で、1時間弱の列車の旅である。台北車站付近から九份までは、バスやタクシーでもいけるのだけれど、単に便利なものより、路線のイメージがはっきり描けるものの方がいいかなあと思ってあえての列車+バスの選択をしてみた。一番安いというのも重要な理由だ。

台湾の列車にしては珍しいらしいのだが、定時出発到着で瑞芳站到着した。ここまで悠遊カード利用で44NT\$。さて、ここで一般的には即九份に向かうのだが、ここでは敢えての十份に向かう。そこで、平溪線に乗り換えることになる。1時間に1本しかない列車だが、次発は余裕の1100である。瑞芳站周辺を少しだけ探索して、平溪線に乗りこむ。十份站まで、約40分、20NT\$

1145十份站到着。到着すれば、何をしにきたのか自然にわかる。天燈、ランタンが並んでいる。ここではランタン上げができるのだ。九份は夕方、ライトが付き始めた頃が見ごろなので、慌てていくことはない。ランタン上げはもちろん夜の方がいわゆる映えるが、昼間でも行われる。（以前観た台湾映画でも主人公たちが昼間に挙げていた。）一方、九份は夕方が圧倒的にいい。そういうわけで、瑞芳站から九份に向かわず、十份にきたわけだ。そうはいつでも、ちょうど昼である。まずは昼食を考える。

「そろそろ、昼だけどおなかの具合はどう。」

「食べられます。」

「そろそろおなかがすきました。」

「おいしそうな匂いがします。」

「この名物は何ですか。」

口々に頼もしい言葉が発せられる。

「とりあえず、この屋台街を巡ってみようか。歩きながら、少しずつ食べるのもいいから。」

線路に沿って、ランタン屋、食べ物屋台が並ぶ。まずは、飲み物を買って、飲みながら歩く。基本的に飲食を歩きながら行うという無作法は

我が家では許されていないのであるが、海外においては治外法権状態である。ここは勘弁してもらおう。ただMRTの中での飲食はご法度である。ここは確実に守らないとそこそこの罰金が科されると車内に掲示してある。

さて、屋台を巡るとおいしそうなものから怪しいものまで様々なものである。この屋台街の名物は鶏肉の骨を抜いてそこに炒飯を詰めた鶏肉包み飯なのだが、果たして彼女たちのアンテナに引っかかるだろうか。大きな肉まんを二人で分けて食べたり、アジアンテイストなアクセサリーを買ったりと楽しんでいるようだ。中国語が上手でなくても、買い物は十分できる。売り手の中には日本語を少しだけだが話す人もいて、特に問題はない。また、この屋台街は鉄道に沿ったそれほど長くない一本道で迷いようもないので、完全に保護者ポジションで見守りモードで過ごす。これもまたいい時間だ。

「なにこれ。面白い。」

芽衣ちゃんが見つけたのが例の鶏肉包み飯だ。「おいしそう。このくらいの大きさなら食べられるんじゃない？」

小晴ちゃんも反応する。

「食べよ。食べよ。」

他の屋台を観察していたゆりちゃんとすずちゃんも近くにきた。

結局一人一本ずつ購入し食べることになった。65NT\$はお得感満載である。炒飯を詰めた鶏も肉は皮がパリッと焼き上がり、中はジューシーだ。ボリュームがあるが多すぎることはない。ベストチョイスといってよいだろう。まずはお互いに食べるシーンを撮影するのはお約束である。例によって、こちらは一口食べてから、撮影を忘れて慌てて撮るといのもお約束だ。

「ランタン上げしてみる？」

おなかが落ち着いたところで、十份に来た主な目的についての提案をしてみる。

「いいですね。」

みんな乗り気でよかった。さっき歩いて、いくつものランタン屋があったので、どれにしようかと迷ったが、なんか気のいいおばちゃんがやっている店が良さげだったので、なんとなく

決まった。ランタンは4面あり、最大4人までかけるのだけれど、なぜか芽衣ちゃんと小晴ちゃん、すずちゃんとゆりちゃん2人で1つのランタンを注文する。ランタンには色があり、それによって願いの種類が様々である。1色150NT\$~。芽衣小晴組は橙色、すずゆり組は桃色を選択。色の意味は橙色：夢が叶う、ダイエット、子孫繁栄で、桃色：良縁、恋愛・結婚運、夫婦円満である。説明を受けているが、わかっているかどうかはわからない。でも、そんなに複雑なことではないのだから、なんとなくでも大丈夫だろう。4人とも説明を受けながらかなりの真剣さで書いている。

「佐伯さんも一緒に書いてください。」

と、小晴ちゃん。

「橙色でいいですね。」

と、芽衣ちゃん。

自分の分を書き終えた二人が声をかけてくれた。4面書くところがあるのでその中の1面を譲ってくれた。ありがたいことだ。ガイドにまで気を使っていたら、申し訳ない。

「ありがとう。喜んで書かせてもらうよ。もちろん。橙色は夢が叶うだから、野望満載の私には最適だね。」

夢は「旅の素晴らしさを伝えたい」だ。芽衣ちゃんがもう1面に「夏旅・台湾」、小晴ちゃんが「2022」と書き添えていた。

書き終えると、店の人がランタンに火を入れてくれた。3人、2人で持って、ランタンの中に熱気が十分たまったところで、手を放す。微風の中、ランタンはほぼ真っ直ぐ上に上昇していった。なんか、映画で見たシーンと同じでゾーンと来た。すうっと上がっていくランタンを見ているとなんだか空に吸い込まれるようだった。今の表現で言えば、エモい瞬間だった。しかし、同時に、自分で上げておいてなんだが、火事になつたりしないのだろうか。それによる家屋の火災、山火事に対して損害賠償など請求されないだろうか。自分の名前が書いてあるから、逃げも隠れもできない。大丈夫か。などと、いい感じのアトラクションの最中に、頭の隅で量子コンピュータが心配していた。

なんかいつまでもランタンの行方を見上げる彼女たちの姿がとても素敵で思わず、写真を撮ってしまった。

「なんか、いい感じですね。」

小晴ちゃんが涙ぐんでいた。

「ほんと、ここに来られてよかった。」

芽衣ちゃんの目も潤んでいた。

「旅行2日目にして、こんないい体験ができた。」

「誘ってくれてありがとう。」

ゆりちゃん、すずちゃんも口々に言っていた。

こちらにも感動に浸っていたが、ふとガイドの任務を思い出した。さて、これからどうするか。なんとなくの予定では鉄道で瑞芳駅まで戻り、そこからバスで九份へという感じだったが、それを含めても、現在1400、日没時刻の1830には早すぎる。折角だから、いくつか提案してみよう。

「歩いて10分くらいのところに吊り橋があったり、歩いて30分くらいのところに滝があったりするんだけど、どうする？」

「そりゃ、行くよね。」

と最初に反応したのはすずちゃん。

「ワンゲルだから歩くのは得意です。」

と小晴ちゃん。

「滝とかマイナスイオン多そう。」

「吊り橋も楽しそう。」

と、芽衣ちゃん、ゆりちゃんも反応してくれた。疲れも見ながらガイドしていこう。まずは吊り橋へ向かう。歩いて10分もかからないところに吊り橋があり、なかなかスリリングだ。「静安吊橋」という。山に登る割には、高いところは意外と苦手なので、ちと辛い。気が狂いそうになるといえば大げさだが、カメラとかパスポートとか財布とか大切なものを投げ捨てたくなる衝動に駆られる。さらに跳びたくなくなるのも厄介だ。高いところは大変危険な場所である。4人は何の怯えも見せず、楽しんで写真を撮っている。これじゃ、吊り橋効果もあったもんじゃない。ま、それを狙って連れてきたわけではないのでどうでもいいが。ひとしきり騒いで写真を撮った後、滝に向かう。「十份大瀑布」という場所だ。途中にビジターセンターがあるので

寄る。当然トイレ目的である。この辺りの気遣いがガイドのガイドたる所以である。自分の用事もあるが、数時間置きにその機会をもつことは大切である。さらにビジターセンターには各種資料が置かれていて、勉強になる。がしかし、荷物になるだけの資料は極力取らないようにしなければならない。ビジターセンターで個人的な学習をしている間に、優秀な学生たちは正しく意図を理解して、体調を整えている。全員揃ったところで、滝へ向かう。やや階段が多い感じだが、彼女たちは元気に上っている。年間登山回数が減ってきた自分は、平気なふりをしているがけっこう息が上がっている。展望台は3カ所あるが、一番映える撮影スポットは展望台1らしく、そこを目指す。

「うわぁ。」

誰もがしばし言葉を失う。水が大きな塊となってどンドン落ちている。

「マイナスイオンがあふれてますね。」

と、芽衣ちゃんが嬉しそうに言う。

「えっ、芽衣にはマイナスイオンが見えるの？」

小晴ちゃんが反応する。

「こはるんには見えないの？粒々があふれてない？」

すずちゃんがノリ始める。

「いやいや、見えないでしょ。」

ゆりちゃんは冷静だ。

「私にはマイナスイオンが見えないけど、気持ちいいのは間違いない。」

「小晴ちゃん、みんなにも見えないから大丈夫だよ。」

「なぁんだ。」

いやいや、信じてたのかぁい。彼女たちの会話はいつも楽しい。

一連の会話が終わったら、すかさず撮影タイムである。いつも観光客で混雑しているらしいが、この時間は空いているのんびりできた。

1500を少し過ぎたところだが、列車のタイミングもあるから、早めに九份に向かおう。

「じゃ、そろそろ九份に向かおうか。」

「はぁい。」

いつも返事が元気でよろしい。

のんびりと十份駅に向かうと、そこにあるものを発見。遭遇確率の低い7人乗りタクシーだ。タクシーを利用しないのは、料金だけでなく、5人乗るのが難しいからである。5人だと2人と3人に分かれなければならない。ま、それぞれのタクシー運転手に行き先を告げればいいだけなのだが、同時に2台確保できない時もあるし、意思疎通が間違っていた時、えらいことになるので、避けていた。しかし、7人乗りならあと2人も余裕がある。確実に一度に動ける。若干高いことが予想されるも、とんでもなく高いはずはない。早速、運転手に話しかけようとしたところ、既に先客が日本人らしい女の子2人組だ。どうやら、2人で7人乗りタクシーに乗ろうとしたらしい。それはあまりやらないな。で、その2人に声をかけた。

「すみません。僕ら、5人グループで九份まで行きたいのですが、どちらまで行きますか。」

「私たちも九份まで行きたいんですが、どうやら2人では乗せられないらしくて。」

「じゃあ、一緒に行きませんか。料金は5:2で割りましょう。お得だと思いますよ。」

「それは助かります。お願いします。」

その旨を運転手に伝えると、了解を得た。

「みんな大丈夫だよ。」

「はぁい。」

というわけで、会ったばかりの2人組も乗せて、タクシーは一路、九份に向かうのであった。初対面の人と狭い空間に同乗しているというのに、さすが自然文化誌研究会・冒険探検部・冒険学校に縁のある彼女たちだ。新しい仲間とも一瞬で打ち解けていた。にぎやかになった車内に、運転手も心なしか嬉しそうだ。約40分の行程。かなり時間の節約になった。それほど急いでいるわけではないが、時間を有効に使うのは大切だ。

助手席に座って、女子トークを聞きながら、うとうとしていると40分などあっという間に過ぎてしまい、九份に到着した。料金は280NT\$。計算しやすいのがあるがたい。二人組の女の子からは1人40NT\$もらって、あとは出しておいた。うちのメンバーに対するランタンの恩

は忘れていないのだ。降りる時になって運転手が何か言っている。なるほど、何時に帰るのか、どこへ行くのかを聞いているのか。一応、2人組にも聞いてみると、台北に戻るといふ。後は時間が合えば、これまた都合がいい。話し合いの結果、1930にこの場所で集合ということに決まった。運転手はカードをくれて、ここに1930に来いと確認している。大丈夫だ。

1600 まだ明るいが、1830頃まで2時間半を十分楽しんでくれるだろう。2人組と集合時間を確認して、分かれた後、5人で茶芸館に向かう。この茶芸館いわゆるジブラーにはおなじみの場所だ。あの赤い提灯が連なる油屋のモデル（諸説あり）とも言われる「阿妹茶酒館」である。

お茶でも飲んで少しのんびりしていただくという段取りだ。

「さて、どうする？ 集合写真ポイントで集まることにして単独行動か、いくつかに分かれるか、5人で動くか。どれでもいいし、その他でもいい。」

「単独も冒険感ありありだけど、暗くなってくると怖い。」

「台北の駅で迷ったのはまだ狭いエリアだったからいいけど、ここは少し広いし複雑だから心配。」

「写真撮ったり、撮られたりするときに複数の方が楽かも。」

「トークが減るのは残念かな。」

そうだ。その通りだ。女子は共感性が強いのだ。しかも言語能力が高く、感情や現象を言語化し表現する能力に長けているのだ。だから、他者の感想に寄り添い、共感する特性が強い。つまり、一人、無言でフラフラする男子とは根本的に違うのだ。

「よし、基本経路と集合場所の確認をして、とりあえず、一緒に動こう。もし、途中でこだわり事案が出たら、分かれてもいいってことで。」

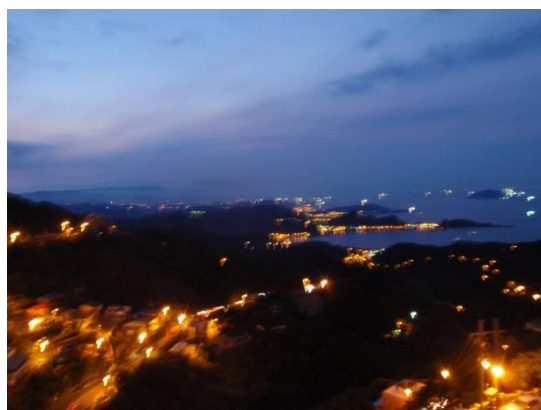
動きが決まったところで、さっそく行動開始である。基本的なルートは2種類「基山街」「豎崎路」が先ほどの茶芸館「阿妹茶酒館」で交差している構造だ。多くは坂道で上り下りはそこそこキツイ。若い人々ならば全く問題ないと思

われる。とにかく観光客が多く、どこの国でも人混みでは掏摸が跋扈するので要注意である。

4人とも掏摸に対する防御姿勢を取りながら、楽し気に階段を上っていく。一方、こちらは北アルプス奥穂、最後の急登を思い出していた。



本当に多くの飲食、土産物の店がひしめき合っている。女子にとってお菓子は別腹なのだろう。様々なお菓子を買って試している。例によって2人で分けているところは、より多くのお菓子を楽しむための戦略であろう。ケーキ的なもの、饅頭的なもの、芋を使ったスイーツなど、台湾ならではの菓子を楽しんでいる。布製小物や木製品を買ったり、花をデザインした文字で名前を書いてもらったりしていた。いくつかある撮影スポットでは撮影会が始まり、集合写真も忘れずに撮った。メモリー大丈夫かと思うくらい撮っていた。



少し日が傾いてきたかなと思ったら既に18時を過ぎていた。赤い提灯が灯り、所謂、映えな状況になってきた。もういいだろうというくらい写真を撮った後、人の少ない展望台で集まってのんびり景色を眺めながら、時間を過ごし

た。

「もう7時だから、そろそろタクシー集合場所に向かおうか。」

「はあい。」

いやいや、どこまで元気で素直な学生なんだ。のんびり下り集合場所に行くと、もう2人組が来ていた。

が、しかし、タクシーがない。おいおい、大丈夫かと心配になったとき、5分遅れで例のタクシーがやってきた。ほっとして乗り込む。ただここで安心してはいけない。運転手との交渉である。どの国にもよろしくない人は存在する。台北までいくらかかると聞くとメーターを指さす。もう一度聞くと1300NT\$以下だという。大丈夫だ。1200が基本なので、少しくらい多いのは大丈夫だ。帰りは士林夜市で下車、夕食を摂って、MRTで台北車站まで帰る。

確実に疲れているにもかかわらず、6人の女子トークは際限がなかった。意外なほどみんなが打ち解けている姿にコミュニケーション能力の高さを改めて思い知らされた。

2人組に自分たちは士林夜市まで行くつもりだということ、同じところで降りるというので、夕食に誘おうかと思ったが、人数が多くなると動きが悪くなるうえに、彼女たちの行動を左右することになるのでやめておいた。もし、誘うならこちらの女子が誘うだろう。

そんなことを考えている内に、夜市に到着した。料金は九份→台北、約1時間、1260NT\$。7で割ると180でちょうどいいが、二人組は2人で400くれた。お世話になったからとのことだ。ありがたい。これから自分たちの予定があるとのこと、そこで分かれた。4人のメンバーからは180ずつ集金した。

台湾最大の夜市、士林夜市。地下グルメエリアも備える士林市場との境はわからないが、一体化しているようだ。九份での活動と同じく、掏摸対策のポジションを確認し、とりあえず5人で行動することにして、人混みに突入する。はぐれて迷子になる可能性もあったが、3人がルーターを持っているので、連絡は普通に取れるため、特に心配はいらない。九份の人混みよ

りさらにパワーを増した人混みに圧倒されつつ、屋台を楽しんでいた。

「どれを選んだらいいかわかりません。」

芽衣ちゃんが嬉しそうに言う。

「そうだよ。座って食べるものもあるけど、歩きながら食べられるものも多いから、よかつたら一緒に食べてみて。」

最初はなんといつても「大鶏排」大型鶏唐揚げ75NT\$だ。外側は硬いくらいサクツとして、中は注意しないと口のまわりが肉汁だらけになるくらいジューシーだ。次は、「胡椒餅」焼き肉まん50NT\$。これも注意しないと熱々の肉汁が噴出して火傷&服の油污れの危険がある。さらにここで間髪を入れず、「蚵仔煎」牡蠣いりオムレツ60NT\$を食す。最初はびっくりしたが、この甘ったるいケチャップが癖になる。これは皿に盛られて出てくるから座って食べるが、他のものは歩きながら食べた。

飲み物はオレンジジュースと緑茶を混ぜた飲み物。これが意外と旨いから驚きだ。

芽衣ちゃんは「大鶏排」に苦戦しながらも、確実に食べ進めている。小晴ちゃんは「胡椒餅」を注意深く食べている。実は猫舌らしい。猫舌に「胡椒餅」はなかなか厳しい。中は本当に熱く、肉汁の噴出予想が難しいのだ。ゆりちゃんは、「等等焼」。どら焼きのようなものに甘いフルーツとクリームが入ったもの60NT\$と格闘している。すずちゃんはなんと「油炸臭豆腐」台湾の人でも食べられない人がいるくらいの強烈な香りの豆腐を揚げたもの60NT\$を食べている。なかなかのチャレンジャーだ。

「すずちゃん、大丈夫？」

「案外おいしいですよ。」

「おすず、すごい臭いだけど、大丈夫なの？」

芽衣ちゃんが心配そうに言う。

「確かに、臭いがキツイけど、考えてみれば納豆だって臭いし、日本にも発酵食品は多いから、臭豆腐が特別ってわけじゃないよ。」

「すごっ。味覚がワールドワイドだね。」

ゆりちゃんは、ちょっと無理という顔をしている。

「私は、いける気がする。」

小晴ちゃんは大丈夫らしい。

「1つ食べる？」

差し出された揚げ臭豆腐の臭いを嗅いだ後、かじった小晴ちゃんは、

「うん、大丈夫。全然いける。」

と笑顔だ。

人の味覚はそれぞれ。また、慣れて変化していくこともある。無理強いすることなく、それぞれがそれぞれの食の世界を広げていけばいいのではないかと思う。

「ビールも飲んでおく？」

「少しなら。」

と、芽衣ちゃんが答える。他の子も同意したようだ。

テーブルのある店にはいり、水餃子と台湾ビールを注文する。

「台湾ビールは暑い地域によく合うんだよね。台湾にいたときもよく飲んでたよ。」

台湾ビールも、水餃子もあつという間に到着して、今日のお疲れの「乾杯」。ま、日本的な乾杯なのですべて飲み干すことはない。台湾の飲み会では乾杯と言ったら飲み干すのが普通なので、ちょっと口をつけてテーブルに置くと、全部飲めと言われる。

「水餃子ってこんなにもちもちしているんだ。」

小晴ちゃんが嬉しそうにいう。

「皮がしっかりしていておいしいね。」

ゆりちゃんも積極的に食べている。

「日本で食べる水餃子と少し違うね。」

すずちゃんも気に入ってくれたようだ。

「台湾ビールに合いますね。」

あっさりしたビールの味は大丈夫なのか、芽衣ちゃんも普通に飲んでいる。

ひとしきり食べて飲んだ後、そろそろ帰ることにする。

歩いて5分くらいのところにある MRT 劍潭站に向かい、体調を整え（トイレ休憩）、そこから淡水信義線に乗り、台北車站まで向かう。MRT 台北車站からホテルまでは5分くらいだ。時間はまだ 2200 頃だったが、2 日連続で寝不足はまずいので、少し早めの帰投である。

「明日は台中移動だから、移動の準備しておい

てね。0700 カフェスペース集合でいいかな。朝食をとってから、高速鉄道で台中に移動します。何か質問ある？」

「大丈夫でえす。」

繰り返しになるが、賢い学生たちだ。

「じゃ、おやすみなさい。」

「おやすみなさい。」

各自、部屋に戻っていった。

自分も素早く部屋に戻り、タオルと歯磨きセットをもってシャワールームに向かう。この際、サンダルを持っているかどうかは意外と重要だ。部屋とシャワールームとの行き来はもとより、ホテルの中にはサンダルを履いたままシャワーを浴びる場合もあるので、快適さに大きな違いが出てくる。幸いこのホテルはシャワールームのフロアは清潔で、裸足でシャワーを浴びることができた。きっちり 10 分で終え、部屋に戻って、旅日記及び会計簿をつける。撮った写真の時間を見ながら記憶を掘り起こし、その時考えていたことや今の考察を記入していく。終わったら、パッキングを一通り済ませ、ビタミン剤と整腸剤を飲んで、ベッドに入る。やはり時間は 0 時を少し過ぎていた。

DAY3 (15AUG2022) 移動日、台中

0630 パッキングは昨日済ませてある。ビタミン剤と整腸剤を飲んで、蠕動運動を誘発した後、身支度。部屋を簡単に整える。

0655 カフェスペースに行くはまだ誰も来ていない。そりゃそうだ。2 日間そこそこハードだったからね。

「遅れました。」

4 人そろって現れる。

「全然遅れていないから大丈夫。それに少くらい遅れても特に問題ないから。絶対遅れてほしくない時は言うから、そんなに心配しなくていいよ。」

みんな元気そうでよかった。疲れも残っていないようだ。若いって素敵。移動途中、新幹線では 1 時間くらい寝られるから、睡眠時間が足りなければ補充してくれればいい。

0700 チェックアウト。既に支払い済み。特に追加料金なし。外に出ると、今日もいい天気だ。

既に暑いがさらに暑くなる予感。今日は移動日で荷物を持って歩かなければならないので、水分補給の具合、疲れ具合の観察を怠らないようにしなければならない。野外活動引率モードになっている自分に気付く。ま、それも当然であろう。彼女たちの保護者ポジションである。

「朝ごはんどこにしようかな。」

「昨日言ったおにぎり屋がいいです。」

と小晴ちゃん。

「なんで？気に入った？」

「気に入ったのもあるけど、2回行けば行きつけの店ですよ。」

うーん、その理論は理解できないが、他のメンバーも異論はないようなので、昨日のおにぎり屋に向かう。現地に着くと、店の人はなぜか。我々のことを覚えていたようで、にこやかに挨拶してくれる。確かに行きつけになったかもしれん。そして、おにぎりを選んで・・・何と、全員があのでかいおにぎりを1個ずつ買うではないか。

「大丈夫。食べきれん？」

「大丈夫ですよ。ラップしてあるから、新幹線の中でも食べられるでしょ。」

と、芽衣ちゃんも特大おにぎりを買っている。

とりあえず、店内で食べられるだけ食べて、あとはラップに包んでバッグの中へ。みんなの移動準備が完了したところで、台北駅に向かう。高鐵 (HSR または THSR) の表示に沿って、台湾高鐵の券売機に向かい、台中までの自由席を買う。700NT\$。



(参考画像：台北→高雄の高铁チケット)
この日は月曜日。したがって、仕事で乗る人が

多いはずなので、空いていると推測していた。即ち、指定席を取るまでもなく、グループで席を確保できると考えた。磁気カードのチケットを自動改札に通し、高鐵のホームへ向かう。



丁度いい列車があった。普通車自由席車両は10, 11, 12号車である。待つまもなく、自由席車両に乗り込むと、予想通り空いていた。



日本の新幹線と同様のモデルなので、2列+3列の見慣れたレイアウトだ。さっそく、1つの3列シートの方角を変え、6人用ボックスシートにする。窓側に4人詰めて乗って、通路側の席を開けてくれたので、足元が広くとれて助かった。

「この高速鉄道で1時間ほど移動したら、台中の高速鉄道駅に到着するから、それまでのんびりしよう。」

ここで4人は徐に、バッグの中から先ほどのおにぎりを取り出した。

「車内でものを食べるとか、こういう状況でないともあまりないから、やっておこうかと思って。」

芽衣ちゃんが説明した。なるほど、敢えて大きなおにぎりにして、弁当として車内に持ち込

むことを考えていたのか。

「佐伯さんも食べますか。」

小晴ちゃんが、おにぎりを少しちぎってくれた。

「あ、ありがとう。」

当然、それほど空腹を感じていたわけではないが、同じ状況を共有するというのは大切だ。ありがたくいただいた。

おにぎりを食べ切り、片付けたら後は際限のない女子トークだ。他の乗客は近くにはいないので迷惑にはなっていないだろう。楽しい女子トークに時折参加している間に時間はあっという間に過ぎて、高鉄台中站到着。改札を出て、台鐵に乗り換える。高鉄が高速鉄道で、台鐵が在来線である。実は同じ台中站でも、高鉄と台鐵では8kmも離れているので、在来線で台鐵台中站へ移動するのだ。掲示に沿って行くと台鐵乗り場にたどり着いた。

「みんな、悠遊カードは持っているかな。」

「はあい。」

いつもながら返事が良い。台北で入手した悠遊カードを使って台鐵に乗る。ここは台鐵新烏日站だ。目的の台鐵「台中站」までは約10分。普通列車で移動する。みんな荷物を持つての移動だが、それほど長い距離ではないので、大丈夫そうだ。アドバイス通り、みんなバックパックを担いでいるので、段差も階段も問題なく越えてついてくる。足取りもしっかりしている。バックパッカー適性は十分あると確認する。台中の掲示が出ているホームに到着すると、既に列車が止まっている。これだと思うけど、若干判断に迷ったので、駅員に台中に行きたいと告げると、これに乗れとの指示を受けたので安心して乗り込む。10分だから立っていても良かったが、運よく座席が空いていたので、みんな座ることができた。

0900丁度の時間に台鐵「台中站」到着。さっそう今夜泊まるホテルに向かう。出口1から徒歩3分のところにある「新驛旅店台中車站店」が今夜の宿だ。もちろん、この時間にチェックインはできない。しかし、荷物を担いで活動するのは動きが悪いので、荷物だけ置かせてもら

のだ。

フロントに向かう。今夜宿泊すること、チェックインタイムはまだだが、荷物だけ預かってもらえないかということを描い英語と中国語で、懸命に伝えると、感じの良いお姉さんに日本語で返されて拍子抜けしてしまった。お姉さんと言っても女子メンバーと同じくらいの年だと思われるが、対応が素晴らしかった。夜市によってくるから、2300近くになると伝えると大丈夫だとの返事。日本人に人気のホテルだとネットで知っていたはずだが、日本語が通じるだろうという推測にまでたどり着かなかった。自分の愚鈍さに呆れる。とにかく、荷物を預かってもらえることになり、一時預かりのタグをみんなと書く。バックパックはちゃんと鍵が付けられるものを選んできているし、鍵も持ってきている。こういう小さなところがバックパッカーとして抜けてはならないところだ。

「みんな、今日は高美湿地にもいこうかなと思っているから、サンダル、タオル、ビニール袋は持って行った方がいいよ。」

それぞれ、サブザックに必要な最小限の装備を入れ、メインザックにタグを付けたら、指定された荷物置き場に置いてくる。チェックインは1500である。たぶんもっと遅くにしか戻ってこないと思うけど、トイレ確認をしてから、声をかける。

「さて、台中観光に行こうか。外せない候補地としては、彩虹眷村、宮原眼科、高美湿地の3つかな。もちろん、他にもいろいろあるし、台中の活動日は今日を含めて3日とってあるから、行きたいところが出てきたら、追加していこう。そこが冒険探検部流の旅の仕方ってところかな。」

「同じところに2日間行ってもいいんですか。」

「もちろんだよ。行きたいと思うところに行く。できるだけ自由に動くのがこの旅。芽衣ちゃんの行きたいところを提案してくれれば、時間を見て、連れて行くことも、行ってらっしゃいを見送ることもできる。」

「環球科技大学に行くことも大丈夫ですか。」

「そうだよ。きっかけは環球科技大学の学生と

の交流プログラムだったよね。小晴ちゃんもやりたいことを最大限やらなきゃ。」

「まだ9時半頃で、時間はあるから午前中は台鐵台中站周辺を探索しながら、宮原眼科を含めた観光スポットを歩いてみない？その後、彩虹眷村（レインボービレッジ）に行くと、その流れで高美湿地かな。」

身軽になって、とりあえず、歩きはじめる。歩道は狭く、ほとんど店の前の歩行スペースを使って移動する。台北では九份や十份という郊外と、駅までの道くらいしか探索をしていなかったから、昼間に市街地を探索するのは初めてだ。台湾第3の都市である台中市街はなかなかの都会である。目的地の宮原眼科までは、台鐵に沿って南下し、右折し、高架下を通過して、さらに右折すると見えてくる。10分ほどしかかからないと思われる距離だったが、街にはいろいろな店や道路標識、日本企業の広告など目を引くものはたくさんある。彼女たちは急ぐことなく好きなだけ時間を取って、観察し、撮影し、語り、歓声を上げた。こちらはなかなか厳しい攻め方をしてくるバイクから彼女たちを守るために前後左右、上下、全方位に気を配り、常に危険を予知しながら保護者ポジションを楽しんでいた。

赤いレンガ造りの外壁、黒い多角形の屋根の目立つ建物が「宮原眼科」というスイーツショップだ。入店すると、なるほどこの建物だけでも一見の価値ありと言えるものだ。開店直後だということに客が多い。しかし、店内は広く、安心して見て回ることができた。お菓子から、アイスクリーム、飲み物など様々なものが1階の店舗で売られていた。お土産に最適であろうが、まだ、旅の3日目である。荷物になるのは避けたいところ。1階でアイスクリームを買った。アイスクリームを食べながら、ゆりちゃんが言った。

「台中市第四信用合作社に行ってみたいんですけど。」

「どなたのところ？」

すずちゃんもアイスクリームを食べながら聞いた。

「ここから歩いてすぐのところであって、銀行だった建物を改装して、宮原眼科と同じようなアイスを出しているところみたい。」

「アイスのはしごとか、いいんじゃない。」

小晴ちゃんは既に行く気だ。

「このレストランはまだ空いてなかったけど、そこは座れそう？」

芽衣ちゃんも行く気になったようだ。

「うん、アイスに特化した店らしくて、10時から入れるし、客席も多いみたい。」

ゆりちゃんは下調べをしたようだ。

「じゃ、佐伯さん。行きましょう。」

さすがはサークルリーダーをしていただけのことはある。芽衣ちゃんは決断を下し、隊は動き出した。

なんと、あつという間に到着した。端を渡って約200m。メニューを見るとアイスに特化したスイーツが多数。

「ひゃあ、すごいですね。」

小晴ちゃんがうれしそうに言う。

「ほんと、どれにしようか迷うなあ。」

もちろん芽衣ちゃんもうれしそうだ。

「問題は、この1つがかなり大きいということね。」

「えっ。おすず、どういうこと？」

「ゆり、向こうのテーブルをそっと見てごらん。あれって、メニューに載っているこれだよ。」

「うわあ、あの大きさは危険かも。」

「でしょ、ゆりは既にアイスを1つ食べていることを忘れてはいけないと思うよ。」

「大丈夫。もし食べられなかったら、佐伯さんが食べてくれるって。」

「芽衣ちゃん、そういう心構えはないわけじゃないけど、4人分の食べられなかったアイスを全部食べ切る自信はないなあ。統計的に女性より男性の方が、胃腸が弱いらしいから。」

検討の結果、トリプルのワッフルのせのフルーツマシマシのサンデーが4つと台湾茶系のシングルアイスがテーブルに並ぶことになった。

例により撮影大会の後、彼女たちのアイアンストマックはこの豪華なサンデーたちを写真に収めたが、胃にもきれいに収めたのであった。

ビタミン及びカロリー、水分など現段階で必要な栄養素を十分すぎるほど摂取した彼女たちに畏敬の念さえ覚え始めていた。

「次はどこへ行く？」

芽衣ちゃんは旅を積極的に引っ張るようになってきた。

「佐伯さん、昔から台中といたらこれ！みたいなものってありますか。」

「よく絵葉書とかにあるのは、金色に輝く巨大な布袋像だね。」

「何、金？Goldですか？」

「おすず、なんか反応が激しいんですけど。」

「Gold, 行きましょう。」

最寄りのバス停を検索し、そこからバスに乗り込む。バス No.105 でバス停「彰化銀行」1129 発、9 分でバス停「宝覺寺」1138 着。悠遊カードは便利だ。だが、そろそろチャージしておく必要がある。コンビニでできるから早めにしておこう。降りるときになって足りないとかは困る。

宝覺寺、寺であるのは間違いないが、日本以外の寺は概して派手なつくりだと感じる。そして、金の布袋様は派手にそして穏やかにお座りになっていた。

「うわあ、金だ。すごいなあ。」

「おすず、テンション上がり過ぎじゃない。」

「だって、ゆり。金だよ、金。」

「確かにこれはすごい。」

「えっ、佐伯さん見たことあるんじゃないんですか。」

「あまり興味がないから、覚えていないんだよ。絵葉書やガイドブックで見て、知ってはいたけど。すずちゃんはそのすごく興味があるみたいだけど、芽衣ちゃんはどう。」

「確かにすごいとは思いますが、それほど。」

「ま、興味は人それぞれだからね。じゃ、芽衣ちゃん、布袋様と集合写真撮ろうか。」

お決まりの撮影会をした後、近くに居た人に布袋様と 5 人の集合写真を撮ってもらった。

「すずちゃん、そろそろ行こうか。」

「ええっ、もう行くんですか。もう少しここに居たいんですけど。」

「あとどのくらい？」

「2 時間くらい。」

「おすず、2 時間いても何もやることないよ。次の場所に行こうよ。」

「だって、いるだけで幸せじゃない？」

「そこまで幸せは感じないなあ。それより、レインボーブリッジに行きたいと思わない？」

「レインボーブリッジなら何度も彼と見に行ったから、もう飽きた。」

「いやいや、レインボーブリッジ、橋じゃなくて村。てか、おすず、彼氏いたの。」

「うん、で、それは置いて。確かにレインボーブリッジも魅かれるものはあるなあ。」

「でしょ、金の布袋様と一緒に写真も撮ったから、もういいでしょ。」

「ゆりにそこまで説得されると、行かないわけにはいかない。行くのか行かないのかどっちなんだって感じだね。」

「おすず、暑さで頭がショートした？」

不毛なやり取りがあって、隊は移動を始めた。バス No.56 が通っている宝覺寺最寄りのバス停

「莒光新城」1211 発、31 分でバス停「彩虹眷村」1247 着。悠遊カードで 29NT\$。

1300 彩虹眷村見学。確かにこれはすごい。極彩色というのか、鮮やかな色使いと優しいタッチで彩られた建物が並んでいる。想定よりもそれ程広いわけではないが、見て回るにはちょうどいい広さだ。30 分ほどで見て回る事ができた。お土産物もあり、壁画のカードなどがお手頃価格で売られていた。確かに映える場所ではある。みんな写真を撮るのに余念がない。お土産物も買って落ち着いた頃に提案した。

「さて、これからが 30km くらいの長距離移動なんだけど、どうしようか。バスや列車で行けるけど、2 回乗り換えで約 2 時間。料金はかなり抑えられる。他にタクシーでいく方法もある。それでも 1 時間くらいはかかる。費用は掛かるけど、5 人で割れば抑えられる。どうする。」

(タクシー料金計算)

・タクシー片道 800NT\$, 2 台で 1600NT\$, 5 人で割って、320NT\$, 約 1 時間。

(バス経路と料金計算)

・バス No.290 が通っている彩虹眷村最寄りのバス停「春社里」1400 発 バス停「第一銀行(沙鹿分行)」1449 着, No.93 乗り換え, 1458 発, バス停「華南銀行(清水分行)」1514 着 No.179 乗り換え 1522 発, バス停「高美湿地」1552 着, 20NT\$, 約 2 時間。

時間と料金のバランスの問題だ。学生の頃は「財力の無さは体力と時間でカバーする。」という方針で, 社会人になってからは「体力と時間の無さは財力でカバーする。」という方針へと転換していた。今回の場合, 一人旅ならバス一択だが, 5 人なのでタクシーでも料金のダメージは抑えられる。それでも料金差は 15 倍である。

さて現在の大学生はどのような判断をするのだろうか。

「320NT\$ って, 日本円で 1500 円くらいでしょ。安いと言えば安いよね。」

「確かに。でも, 芽衣。バスの 20NT\$, 約 100 円との差が大きすぎて, 判断に迷うよね。」

「芽衣もこはるんも, 迷うことないよ。ここはバス一択でしょ。」

「でも, おすす。タクシーに乗って 1 時間 1500 円ってすごく安くない?」

「ゆりは 2 時間バスとか大丈夫?」

「途中で乗り換えもあるから, 気分転換もできるし, 大丈夫だと思う。」

正直, タクシーを選択するかと思っていたのだけれど, 体力と時間を使って, 財力をカバーする方を選ぶとは, これから多くの海外旅行をしていく素質の確かさを改めて感じさせられた。

「ま, そうだよ。安いから, タクシーを使うことも考えていいけど, 時間的に大丈夫なら, 支出を抑えることを選ぶのもいいね。」

「佐伯さんが学生の頃ならどうしましたか。」

芽衣ちゃんの質問には即答だ。

「バス一択だね。日本のバスなら考えるけど, 海外のバスはそれほど車酔いしない(自分調べ)から, 安い方を選ぶ。それに一人旅だから, タクシー費用を抑えることもできないし。もちろん, 旅先であった人と乗り合わせて移動することもよくしたけど。」

「私たちが学生ですから, それほどお金持ちじ

やないんです。できるだけ, 出費は抑えたいと思います。」

「芽衣ちゃん, それって, とても大切な考え方と思うよ。そうして, これからも多くの冒険旅行をして欲しい。じゃあ, さっそくバス停まで行こう。」

彩虹眷村最寄りのバス停「春社里」まで 3 分ほど歩き, No.290 バスに乗り込むと 1400 定刻通りの出発である。街並みを眺めながら, 女子トークを聞きながらバスは順調に進む。50 分ほど乗ったところのバス停「第一銀行」で No.93 バスに乗り換え, すぐ出発する。15 分ほど乗ったところのバス停「華南銀行」で No.179 バスに乗り換え, 30 分ほどで, バス停「高美湿地」に到着した。

「案外, 早く着きましたね。」

小晴ちゃんが元気に言った。

「ずっと乗っているより, 乗り換えがあつてよかったね。」

ゆりちゃんも元気だ。

「今, 午後 4 時で, 日没が 6 時半ころだから, 少し時間があるね。」

「芽衣, 日没時刻調べてあるの?」

「もちろん, 夕暮れがいい感じかなと思って。おすすもたくさん撮るよね。」

「下調べがいいね。今日は干潮が 1922 だから, ちょっと惜しいけど, かなり潮が引く感じになるから, あとは風がなければ, いい写真を撮ることができそうだね。」

「佐伯さんも調べているんですね。」

「写真のこともそうだけど, 干潮の方が海の生物を観察できて楽しいから。さあ, サンドルに履き替えて, 干潟に行こう。」

干潟の先まで 700m ほどの栈橋がつくられており, その先端から降りられるようになってい。用意しておいたビーチサンダルで干潟に降りる。栈橋より視線が下がり, 海が近くに見える。水面のあちこちで何かが動いている。

(おっ, シオマネキ。このカニの動きは特徴的で面白い。おおっ, ムツゴロウもいる。あ, カニがシラサギに食べられている。)

通常, 海なし県に住んでいるので, 海の生物

の観察はとても楽しい。ここは想定以上に生物が豊かだ。みんな、転ばないように注意しながらあちこちで撮影会が始まっている。本当に転ぶのだけではないように注意してほしい。泥だらけになった女子を助けるのは簡単ではない。

夕暮れが近づいてくる。空が色づいてくる。今日はいい天気で、水平線近くに霧はかかっているが、雲はほとんどない。風も少ない。年に数回しかない奇跡的な状況であるはずだ。台湾人のカップルに声をかけられた。写真を撮ってあげようか。意図は明確に伝わった。カメラを渡し、集合写真を撮ってもらった。そして、もちろん、次に彼らの写真を撮った。学大写真部OBの名に懸けて最高のショットを連発したはずだ。

「いいですね。」

すずちゃんがつぶやいた。

「今度、彼氏を連れてまた来てよ。」

「そうします。」

マジックアワー、この夕暮れの短い時間をそう呼ぶ。映画も写真もいい絵がとれると言われている。この雰囲気も気持ちにも影響していると思われる。妙に素直に、落ち着いた気持ちになっている。素敵な時間が過ぎていった。

そんないい感じをぶち壊すように、帰りの準備を呼びかけた。タオルで足を拭いて、靴に履き替えた。ライトアップはされるものの、暗くなってからの移動はできるだけ避けたい。市街地ならばまだしも自然に接する場所ではどんな危険が潜んでいるかわからない。頭の中で、危険回避のための警報が控えめに、しかし確実に鳴り始めていた。マジックアワーはあつという間に終わり、辺りは夕闇に包まれようとしていた。濡れたビーチサンダルとタオルをしっかりとビニール袋に入れたうえで、バッグにいれ、バス停に急いだ。

高美湿地最寄りのバス停「高美湿地」まで10分ほど歩き、No.179バスに乗り込むと1844出発。30分ほど乗り、バス停「清水」1913着。ここでNo.305Eに乗り換え、1923発。50分ほど乗ると、バス停「新光」に2016到着。徒歩5分でバス停「新光三越」に移動し、No.33バス

に乗り換え、2035出発する。10分ほど乗ったところのバス停「福星立体駐車場」に2041到着。逢甲夜市まで徒歩50m。

67NT\$, 約2時間。

帰りのバスの中も賑やかな女子トークが咲いていた。どこからこのエネルギーが生まれてくるのか。不思議だ。午前中のアイスクリームでカロリーは十分摂取したものの、以降は水分とバッグの中に入れてあるお菓子くらいしか食べていないから、ずいぶんおなかが空いているはずだが。

2050逢甲夜市到着。黄金右腿90NT\$（鶏肉にチーズと自家製ソースをかけたもの）はかなりの量があったが、空腹だったせいか、みんなあつという間に食べてしまった。続いて、蛋餅45NT\$（クレープのような食べ物）を食べると、やっと落ち着いた。

「今日は、一日動き回って、疲れたんじゃない？」

「それほどでもないです。」

「高美湿地のいい写真が撮れてよかったです。」

「金の布袋様が特によかったです。」

「レインボービレッジが印象に残りました。」

「それはよかったです。じゃ、さっとホテルに戻ろう。」

No.45Extendバス2144発に乗り込む。30分ほど走るバス停「港城」に到着。そこから500mほど歩いてホテルに到着した。ちょうど22時半。既に、部屋は決まっていて、荷物も入れているという。パスポートの提示と宿泊者カードの記入をすると、すぐ部屋に向かうことができた。女子たちは2人ずつに分かれて、ツインルームへ、こちらはツインルームに一人宿泊である。部屋番号などは交換しなくても、ホテル内はWIFI完備されており、SNSで連絡が取れるので特に問題はない。（ルーターもある。）

「このホテルは朝食つきプランだから、明日の朝は、0700レストランでどうかな。早めに来て、食べていて大丈夫だから。」

「それでいいです。」

「ではそういうことで。おやすみなさい。」

2245こうして夏旅の3日目は静かに過ぎていった。（つづく）

夏旅 2022 台湾 ～アナザースカイへのお誘い～

■訪問を検討した都市, 施設, 活動 (旅 3 日目までで行ったところは☑)

(台北)

☑台北桃園国際空港 ⇔ 東京成田国際空港

- ・故宮博物館 世界四大博物館の一つとも言われる (諸説あり)
- ・中正紀念堂 蒋介石を記念して建てられた。「台湾民主記念堂」儀仗隊の交代儀式
- ・台湾故事館 昔の台湾の街並み, 庶民の生活を再現した博物館
- ・二二八和平公園 二二八事件関連資料を展示した二二八紀念館
- ・国立台湾博物館 台湾の動植物, 原住民族の生活に関わる資料

☑士林夜市 台北の観光夜市

- ・台北 101 台北 101 展望台 (600 元) スカイライン 460 (3,000 元)

☑九份 「千と千尋の神隠し」的な街並み

☑十份 天燈上げ

- ・淡水 夕景が有名, 洋館のある街並み

(台中)

☑彩虹眷村 カラフルな壁画を見学

☑宮原眼科 スーツショップ, レストラン併設 (昼食)

☑逢甲夜市 台中最大の夜市

☑高美湿地 高美野生動物保護区, 「台湾のウユニ塩湖」とも

- ・国立台湾美術館
- ・国立自然科学博物館
- ・環球科技大学

(高雄)

- ・(台南) 烏山頭水庫

- ・西子灣 旗津 打狗英国領事館 打狗鉄道故事館 壽山景觀台

- ・蓮池潭 龍虎塔

- ・三地門 台湾原住民族文化園區

- ・駁二芸術特区 高雄市立歴史博物館

- ・六合夜市, 瑞豊夜市, 苓雅夜市&自強夜市 新堀江 左脚右脚

■宿泊ホテル

(台中) シティインプラス台中駅ホテル (新驛旅店台中車站店) (CityInn Plus Hotel-Taichung St.)

台中市東區復興路 4 段 133 號

TEL+886-4-22232333 FAX+886-4-22237333 台鉄台中駅 1 番出口から徒歩約 3 分

スーペリア ツインルーム (ベッド 2 台) シャワーとトイレ付/禁煙 朝食あり

2 人利用 6,048~18,900 円/室 (1,440~4,500 TWD) 1 人当たり 3024~9450 円

(高雄) PAPA WHALE-KAOHSIUNG FORMOSA BOULEVARD(高雄美麗島館)

高雄市新興区民生一路 328 号

TEL+886-7-2519888 FAX+886-7-2516777 美麗島駅中央公園は徒歩圏内。

デラックスファミリールーム バス トイレ付/禁煙 180×210cm 2 台 朝食なし

4 人利用 7,921~29,618 円/室 (1,886~7,052 TWD)1 人当たり 1980~7404 円

■日程 予定と実際の行動 2022.8.13 - 22 ver.2

8/5	金	冒険学校① 6泊7日	キャンプ場
8/11	木	冒険学校⑦ 参加者解散, 片付け 反省会	
8/12	金	片付け～移動・旅行最終準備	日暮里
8/13	土	夏旅 01 移動日 (成田→台北) (移動) 1030 日暮里集合 1105 日暮里発→1141 成田国際空港着 (移動) 成田 → (午後) 台北 CX451 15:40 NRT 成田 → 18:35TPE 台北	台北
8/14	日	夏旅 02 九份・十份観光, 台北観光, 士林夜市 (台鐵台北車站→ 瑞芳站→ 十份站) 十份 (十份大瀑布, 老街散策, 天燈上げ) (タクシー 十份→ 九份) 九份 (散策) (台鐵十份站→瑞芳站→バス→九份)	台北
8/15	月	夏旅 03 移動日 (台北→台中), 台中観光, 逢甲夜市 (移動) 高鐵台北站→台中站→台鐵新烏日站→台中站 宮原眼科, 台中市第四信用合作社, 彩虹眷村, 宝覺寺, 高美湿地, 逢甲夜市	台中
8/16	火	夏旅 04 台中観光, 逢甲夜市 環球科技大學 台鐵台中站→斗六站→東和國中 7:56 - 9:46 (1h50m) 164 元 高美湿地予備	台中
8/17	水	夏旅 05 台中観光 終日フリー, 逢甲夜市 国立台湾美術館, 国立自然科学博物館	台中
8/18	木	夏旅 06 移動日 (台中→高雄), 烏山頭水庫, 高雄観光, 六合夜市 (移動) 台鐵台中站→台鐵隆田站 8:07 - 10:42 (2h35m) 196 元烏山頭水庫 (移動) 台鐵隆田站→台鐵高雄站 16:46 - 17:57 (1h11m) 151 元 七美望安, 高雄市立図書館, 新堀江, 左脚右脚	高雄
8/19	金	夏旅 07 高雄周辺観光, 苓雅自強夜市 三地門 台鐵高雄車站→屏東→三地門 8:30 - 9:59 (1h29m) 駁二芸術特区 高雄市立歴史博物館 西仔湾, 旗津, 打狗英国領事館, 打狗鉄道故事館, 壽山景観台	高雄
8/20	土	夏旅 08 高雄観光, 移動日 (高雄→台北), 饒河街観光夜市 蓮池潭 龍虎塔 (移動) 高鉄左営站 → 高鐵台北站 14:52 - 16:29 (1h37m) 1490 元	台北
8/21	日	夏旅 09 台北観光 終日フリー, 寧夏夜市 故宮博物館, 中勢紀念堂, 台湾故事館, 二二八和平公園 国立台湾博物館, 台北 101, 鼎泰豊,	台北
8/22	月	夏旅 10 (移動) 台北車站→桃園国際空港 (TPE) 8:45 - 9:47 (1h02m) (移動) 台北→(午後) 成田 CX450 13:00 TPE 台北 → 17:20 NRT 成田	(解散) 日暮里
8/23	火	夏旅 11 日暮里→小菅→岐阜	